自然とのふれあい教室

カケスさんと歩こう！

初夏～夏の青葉公園ガイドブック

目　次

1．　カケスさんからのお願い・・・　2ページ
2．　青葉公園の植物・・・・・・・・　3ページ
3．　青葉公園の昆虫・・・・・・・・　6ページ
4．　青葉公園の動物・・・・・・・・　8ページ
5．　青葉公園の歴史・・・・・・・・　13ページ
6．　巨木（15本）のデータ　・・・　14ページ

2020年 6月発行
公益財団法人ちとせ環境と緑の財団

カケスさんからのお願い

次の１～３を守り、初夏の青葉公園を楽しみましょう。

1　コースから外れて踏み荒らさないように歩きましょう。
2　知らない草や虫には、触らないようにしましょう。
3　ウルシ、ダニ、ハチなどに注意しましょう。

カケスさん（中原　直彦 氏）
(公財)日本自然保護協会 自然観察指導員
しこつ湖自然体験クラブ＊トゥレップ理事

【カケスさんのプロフール】

・小学校講師　専門は環境学習、アイヌ文化学習
・千歳市市民活動交流センター「ミナクール」にも勤務
・趣味はブルーグラス・バンド
・千歳市「向陽台」に在住

＜ 服装・持ち物 ＞

・熱中症予防のため、帽子（白色系）、タオル、飲み物などを用意しましょう！
・虫眼鏡（ルーペ）、虫よけ、着替え（白色系）などがあると活動がより楽しめるでしょう！

【新型コロナウイルス感染防止について】

国や道から発信されている、「新型コロナウイルス感染拡大防止の対策」を守りましょう。

青葉公園の植物

何はともあれまずは、この植物を覚えましょう！

触ると「かぶれる」人も多い、毒のある植物です。個人差がありますが敏感な方は、激しいかゆみが起こり肌が赤く腫れてしまいます。青葉公園にもいたるところに生えています。

このアレルギー性・接触性皮膚炎は、その名も「ウルシオール」という物質によるものです。特に敏感な方は、ウルシに触れなくとも近くを通っただけでかぶれを起こします。１～２日後に症状が現れる場合が多く、外用薬が必要となるほか、ひどい場合は皮膚科を受診しカルシウム注射をすることになります。

ぜひ最初によく覚えて、注意しましょうね！

ツタウルシです。つやのある３枚の葉が特徴。地面にも広がっています。

「つた」だけあって、日光を求めてよく樹の幹を上ります。
左側に並んでいるのはツタウルシではないのが分かります

もうひとつは**ヤマウルシ**です。

たくさんの葉が付いた葉柄が放射状に枝先に伸びます。葉柄は赤色を帯びています。幹は枝分かれが少なく、シュルッと伸びている感じの樹です。これもツタウルシと同様に、いわゆる「ウルシかぶれ」をおこす事があります。

どちらのウルシも秋には一番初めにとても美しく紅葉しますので、よく覚えて気を付けましょう。

ヤマウルシも日光を求めて林の縁から明るく開けた所へ、幹をシュッと伸ばしていることがよくあります。

初夏から夏にかけてはこのような小さな粒つぶの花・実を付けています。

この実は秋・冬には野鳥たちが好んで食べます。

葉が茂り暗くなった林床で初夏を感じる花々を探しましょう。

黄色くてよく目立つのは、**コケイラン**。可憐なランの仲間です。

赤い花は、**ベニバナイチヤクソウ**です。

ピクニック広場のキャンプ場には、幽霊が出るぞ・・・って、それじゃあ肝試し（きもだめし）ですね！？

ギンリョウソウは、別名「幽霊タケ」。腐生植物といって葉緑素をもたない植物なので、キノコのような別名が付いています。

小さめな白い花は数多い中、これは比較的大きな白い花**ヤマシャクヤク**です。

悲しいことに、掘って持ち帰る人がいたり開発で生育地が破壊されたりして。準絶滅危惧（NT）に指定されています。

❷ 青葉公園の昆虫

初夏から夏にかけての季節は、まさに昆虫たちが羽化し繁殖のために動き回る躍動感に満ちた季節です。地球は「昆虫の惑星」と言われるほど、動物の中で昆虫は圧倒的に多くの種がいるのですから、実は青葉公園だけ見ても何種類の昆虫が暮らしているのか、正確には解らないのです。

それでは、天から降るように響き渡る賑やかなエゾハルゼミの声を聴きながら、昆虫の世界に近づいてみましょう！

ぬけがら。
朝早い時間に土の中から這い出して幹に登って羽化します。

エゾハルゼミが、たくさん鳴いています。オスが腹の発音器を振るわせて大きな音を立ててメスを呼んでいるのです。抜け殻は簡単に見つかりますが、樹の高い幹に登っている姿を見つけるのは至難の業です。

セミの仲間は短命と言われます。たしかに繁殖するために地上に出てからは数日から数週間で息絶えてしまいますが、土の中での生活は数年間と長いのです。人知れず力を蓄える、じっくりタイプなのです。

中央広場の噴水のそばに咲き誇るフジ棚があり、甘い匂いが漂っています。もちろんその匂いは人間を楽しませるためのものではありません。虫を誘って、花粉を運んでもらうための匂いです。

さまざまな昆虫がフジの蜜を目当てにやって来ています。もちろんその代表は蜂たち。**マルハナバチ**の仲間が楽しそうな羽音を立てて飛び回っています。

花弁にしがみついて次の花に向かってもぞもぞしているのはコガネムシの仲間の**ハナムグリ**。飛ぶのも甲虫の中ではとても巧みで、自在に飛び回る姿は一見するとハチかアブの様です。

③ 青葉公園の動物

都市に隣接している割に自然度の高い青葉公園には、多くの動物もすんでいます。

最も大きなものはエゾシカ。最近は特によく観られるようになりました。エゾリスもいます。葉が茂った夏の森では見つけにくいですが、葉の落ちた冬には樹から樹へ飛び移るように移動するかわいらしい姿を観ることができます。エゾシマリスは地上性で冬眠する生態をもつ事もあり、青葉公園ではめっきり観ることがなくなってしまいました。さびしい事です・・・。

ここでは、たくさん見かける「カタツムリ」の仲間からご紹介しましょう。

これらは全て、
サッポロマイマイです。
濃い茶色の帯が殻にあるのが特徴ですが、なぜか青葉公園には、帯のない「白い」タイプのサッポロマイマイがほかの地域よりも多く観られます。

「芝生広場」の池まで足を延ばすと、**エゾサンショウウオ**が、小さな足が出たばかりの姿で泳いでいました。早い物はもうほとんど黒い成体（おとな）の姿になっていて、遊びに来ていた小学校高学年の子が手づかみで獲って見せてくれました。

本格的に幼体の時の鰓（えら）呼吸から完全に成体となると肺呼吸に変り、池から出て周辺の木々の下の落ち葉の中で暮らすようになります。

池にはサンショウウオ以上に**オタマジャクシ**がたくさんいます。**エゾアカガエル**の幼体です。実はエゾサンショウウオの幼体の食物は、このオタマジャクシなのです。これだけいればおなかを空かせる事はなさそうですね。

とても美しく、かわいいヘビに青葉公園で出会った事が一度だけあります。その名も**ジムグリ**。これはまだ子どもで成体になると 70cm ほどになります。

いつも土の中に暮らすので「地潜り＝じむぐり」。ですからめったに見かけることはありません。

観察会で皆さんと歩くと、見つかる確率は上がるかな？

枯れかけた樹の幹では、キノコの仲間が仕事中です。硬い植物の遺骸も分解して土をつくる大切な仕事です。

ドングリから芽生えたばかりの**ミズナラ**の赤ちゃんです。
運が良ければ、これから何百年も生きるかも知れませんね！

樹の幹に、こんな傷をつけたのは誰でしょう？
これは**エゾシカ**がツリバナの木の皮を食べた跡です。

青葉公園の主役は１年を通じて何と言っても**「巨木」**たちですね！

400 歳を超える**ミズナラ**などが何本も生きている姿に神々しさをも感じます。

ちとせ環境と緑の財団主催の「巨木をめぐるウォークラリー」のコース図（マップ）を 15 ページに付けますので、ぜひ巡ってみて下さい！

大きな樹の幹に、縦に長い穴が深く開けられています。

これはキツツキの仲間では最大の**クマゲラ**が幹にすむアリを食べるために開けたもの。

天然記念物の野鳥が青葉公園を確かに使っているのです。先住民族アイヌは「チプ・タ・チカップ（丸木舟を彫る鳥）」と呼んでいます。

青葉公園の歴史

青葉公園は市街地に近接する都市公園であるが、戦前は国有林の保安林として守られてきたために森林が比較的よく保存されてきました。（通称「神社山」と呼ばれていたそうです。）

1952 年（昭和 27 年）に、公園の名称を一般公募により「青葉公園」に決定し、翌年に総合公園として都市計画決定を受けています。（公園の名称として他に鶴ヶ台公園、緑ヶ丘公園、宮ヶ丘公園などの提案もありました。）また、1954 年（昭和 29 年）に、千歳町が払い下げを受け「青葉公園」が誕生しました。

1973 年（昭和 48 年）11 月、千歳市の緑化整備計画に基づき依頼を受けた北海道大学付属植物園の調査によると、公園内には、386 種の草木が自生しており、最奥部には貴重なオシダ・フユノハナワラビ・ナツボウズが多く残り、自然植生のよく保全された一角は自然植物園、野草園的な地区にするのが望ましいとされました。

現在、林内には、ミズナラやイタヤカエデなど大径木が残されており、都市の直近にありながらキツツキ類やカラ類などの野鳥と出会えます。

また、陸上競技場などのスポーツ施設や散策路なども整備され、公園の面積は 102.3 ヘクタールとなっており、千歳市民にとってもっとも身近な自然といえる存在となっています。

（参考資料：新千歳市史 通史編 上巻、下巻）

巨木（15 本）のデータ

巨木をめぐるウォークラリーのコース内にある巨木(15 本)の胸高幹周、樹高、推定樹齢、推定年号は、次のとおりです。

No.	樹木名	胸高幹周（主幹）	樹高（約 m）	推定樹齢（約年）	推定年号
①	ハルニレ	３５７cm	２４m	３３０年	天和 2 年　(1682 年)
②	ハルニレ	３３３cm	２１m	３１０年	元禄 15 年 (1702 年)
③	ミズナラ	３１９cm	２０m	４３５年	天正 5 年　(1577 年)
④	ミズナラ	３５９cm	２３m	４８５年	大永 7 年　(1527 年)
⑤	ミズナラ	３２２cm	２０m	４３５年	天正 5 年　(1577 年)
⑥	ミズナラ	３１８cm	２３m	４３５年	天正 5 年　(1577 年)
⑦	ミズナラ	３２１cm	１９m	４３５年	天正 5 年　(1577 年)
⑧	コナラ	３１５cm	２６m	４３０年	天正 10 年 (1582 年)
⑨	ミズナラ	３１９cm	１９m	４３５年	天正 5 年　(1577 年)
⑩	ミズナラ	２９３cm	１８m	４０５年	慶長 12 年 (1607 年)
⑪	ミズナラ	３２７cm	１８m	４４０年	元亀 3 年　(1572 年)
⑫	ミズナラ	３０２cm	２０m	４１５年	慶長 2 年　(1597 年)
⑬	カツラ	５０３cm	２１m	３５０年	寛文 2 年　(1662 年)
⑭	カツラ	４２９cm	１８m	３９０年	元和 8 年　(1622 年)
⑮	カツラ	５４９cm	２２m	４８０年	天文元年　(1532 年)

（平成 24 年　財団調査）

巨木をめぐるウォークラリー
青葉公園コース図

オオアマドコロ

ルリハムシの仲間

■監修　中原　直彦（なかはら・なおひこ）

公益財団法人ちとせ環境と緑の財団

事業課 緑化振興係

電話　0123-22-1117　FAX　0123-22-1118

HP　https://www.chitosekankyou-midori.or.jp/